

最近の中東・エネルギー情勢から

● 湾岸地域の労働市場は急速に回復しているとの調査結果を発表したインド系人材斡旋会社

(2011年10月12日掲載)

湾岸地域の社会問題にもなっているのが若年層を中心とした失業問題であるが、人材紹介会社が最近行った労働マーケット調査の結果を2011年10月1日付けのハリージュ・タイム (Khaleej Time) 紙が報じている。調査を行ったのは、インド資本でドバイに本拠を置くマイハイヤリング・クラブゴルフ

(MyHiringClubGulf、インドのグルガオンに本社のあるMHCの子会社) である。同社はホーム・ページに企業の求人情報を掲載して、求職者とのマッチングをオン・ラインで行う人材紹介サービスをアジア、湾岸地域で提供している。

同社の調査は、湾岸地域の企業689社及び人材斡旋会社387社を対象に行われた。それによると、2011年上半期の求人件数は昨2010同期比で22%の増加となった。2011年上半期を通じて、湾岸諸国の中で採用活動が最も活発だったのはカタールとサウジアラビアであった。アブダビでは採用の増加は見られたが、伸び率は前年同期に及ばなかった。一方、ドバイ、クウェート、バハレーンでは、採用の伸び率は前年同期を下回っていた。

業種別の採用状況で顕著なのは、2010年上半期と比べて、小売部門が14伸び率%と最も大きな増加をみせたことだ。反対に教育部門は最も低く2.9%の伸び率にとどまった。職種でみると、人事職が12%増と突出している。続いて販売、営業職が10%で、逆に最も伸び率の低いのが弁護士の3%増であった。

今回の調査では、湾岸諸国の給与水準も増加していることが分かった。例えば2011年上半期の湾岸地域の専門職の平均給与水準は前年同期比で11%上昇している。なかでもカタールとサウジアラビアの給与水準は平均値を上回った。UAEとバハレーンは増加こそしたものの、上昇率は4%留りで調査対象地域の国の中ではもっとも低い増加率に終わった。外国人労働者については、アジアとアラブ地域からの出稼ぎ労働者の給与に上昇が見られた。他方、湾岸地域における欧米人の給与は下がっていることも明らかとなった。

同社は、2011年下半期の湾岸地域の労働市場の先行きを楽観視している。理由は、新規雇用が増加傾向にあることに加えて、ドバイ・ショックの直後に見られたようなレイオフが減少しているからである。同じくインド系でオン・ライン人材紹介サイトを運営しているナウクリガルフ.コム (Naukrigulf.com) が湾岸地域の人材斡旋会社80社を対象に行った調査でも、レイオフを心配しているのは7%にすぎず、76%の企業は新規雇用を増加していると答えていた。こちらも、労働市場が回復基調にあることを裏付ける材料といえよう。

(10月8日、記)

< 関連情報 >

● サウジアラビアの民間部門で始まった自国民優先雇用政策を見守るUAE 【2011/8/2】

● 若者の失業問題解決の決め手となるか疑問が残るサウジアラビアの新自国民雇用優遇政策 【2011/7/5】

● 雇用対策として民間企業に課している現行の自国民採用枠を見直し新制度の導入を決めたサウジアラビア 【2011/7/1】